

津久井町史・相模湖町史を編さん中

2006（平成 18）年 3 月 20 日、相模原市と津久井町、相模湖町が合併し、新しい相模原市が誕生しました。この旧 1 市 2 町では各々で、市史・町史の編さん事業が進行中でした。合併の課題のひとつとして検討を重ねた結果、地域固有の歴史や文化を記録するために、今後も「相模原市史」「津久井町史」「相模湖町史」として、当初の刊行計画通りに事業を進めていくことになりました。今回は、津久井町史と相模湖町史について紹介します。

津久井町史

町制施行 40 周年記念事業として、通史編・資料編・別編全 7 巻を刊行することになっています。このうち 2003（平成 15）年度に『資料編近世 1』を刊行し、今年度は『資料編考古・古代・中世（1）』の刊行を予定しています。また、付帯刊行物として『ふるさと津久井第 1 号～4 号』『調査報告書』があります。



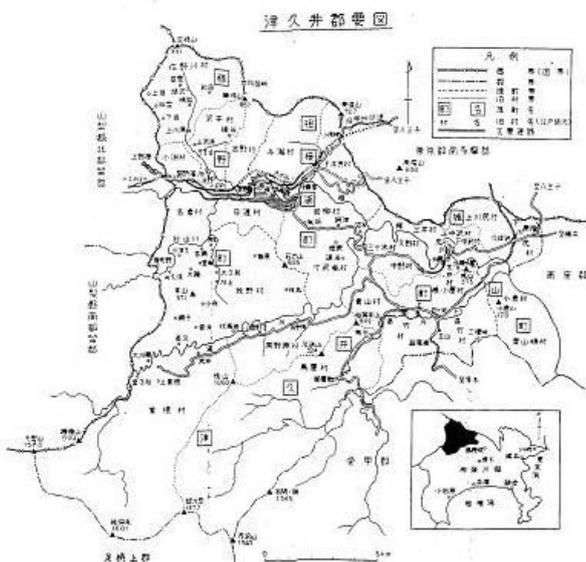
相模湖町史

相模湖町合併 40 周年記念事業として、歴史・民俗・自然の各編を刊行することになり、1993（平成 5）年度から資料収集、調査、執筆、編集を行ってきました。2000（平成 12）年度に『歴史編』を刊行し、今年度は『民俗編』の刊行を予定しています。



なお、この「市史編さんだより」は、旧相模原市の市史編さんの状況を中心にお伝えします。ただし、販売のお知らせなどでは随時、津久井町史・相模湖町史についても掲載いたします。

「津久井郡要図」 出典：『封建村落—その成立から解体』
（1958）文雅堂書店
（2 ページに関連記事）



津久井のこと 市史編さん室特別顧問 神崎 彰利

ここでいう津久井とは、旧津久井郡全体のことで、私が津久井の調査めいたことを始めたのは、大学2年のとき、1952（昭和27）年ですから半世紀前になります。私も年をとったなあ、と今感じています。以来津久井の歴史とは何かと関係が続いていますが、その間の幾つかの感想の中で、よく歩いたことと、地元の方々の暖かい対応が思い出されます。

昭和27年、明治大学学生として研究の合同調査に参加し、同29年3人で郡の縦断をしました。郡北西端の佐野川村旧名主佐藤家から南下、沢井村石井家（同家は現在国の重文に指定）で一息つき、相模川を渡船で渡り、日連村一牧野村に至り、ここで旧名主神原家の豪壮な長屋門・住居をお茶を頂きながら見学、なお南下し、鼻曲り鮎で知られた道志川を渡って、郡最南西端青根村旧名主井上家でこの縦断は終わりました。この途中道に迷い、谷を隔てた山腹で材木を伐出していた人に大声で道を尋ね教えてもらいましたが、その最後に「猪が出るかもしれねえから 気をつけろよ」の一言には驚きました。山と谷の歩きでしたが、調査結果は木村礎編『封建村落—その成立から解体』としてまとめられ刊行しました。

1984（昭和59）年～1985（同60）年にかけて3度横断しました。私個人の調査で、国の重文である「五街道分間延絵図」のうち、「甲州道中分間延絵図 第3巻」駒木野—小仏から津久井四か宿—甲州鶴川迄の解説編執筆のためです。津久井四か宿＝小原—与瀬—吉野—関野ですが、小仏は甲州道中最難関です。

歩いたことだけを書いてきました。津久井の歴史調査は、その自然の中を歩くことから始まるのです。歩いて古文書所蔵の旧家で古文書を拝見し、時には昼食ばかりか、夕食まで頂いたこともあり、その何軒かの方々とは今も交際させていただいています。自然と人と古文書、そして歩き回ったこと、これが私の津久井です。



前の相模原市史の調査中、建設中の城山ダムにて向かって右端が筆者 1964（昭和39）年

津久井町史・相模湖町史を販売中

市史編さん室と市立博物館、市役所・津久井総合事務所・相模湖総合事務所の各行政資料コーナーで、販売しています。 ※は残部僅少

【津久井】	価格
ふるさと津久井 第3号～津久井の古地図～※	1,000円
ふるさと津久井 第4号～養蚕と織物（1）～※	1,000円
津久井町の昆虫 I	1,700円
津久井町史 資料編 近世 1	2,000円
【相模湖】	
相模湖町史 歴史編	14,000円



シリーズ 駅・いまむかし①

小田急線小田急相模原駅

今回から、市内にある鉄道の駅を、現在と過去の対比写真で紹介し、景観の変化を見てみます。

この駅は1938（昭和13）年、臨時東京第三陸軍病院の最寄駅として開設されました。

当初の駅名は「相模原」でしたが、3年後に「小田急」の名が加えられました。右上の写真は1975（昭和50）年8月に撮影された、駅北口の様子です。看板に見えるスーパーマーケット「小田急OX」は、1966（昭和41）年の橋上駅舎化とともに開店したものです。

駅では現在、2008（平成20）年3月の全体工事完成を目指して、再開業事業が行われており、バスターミナルも移転、OXも仮設店舗での営業となっています。（参考：『小田急五十年史』（1980）小田急電鉄株式会社）



ほぼ同位置から撮影した、現在の駅の様子
（2006（平成18）年6月）



浜田弘明氏撮影

表：小田急相模原駅の
1日平均乗車人員の
変遷

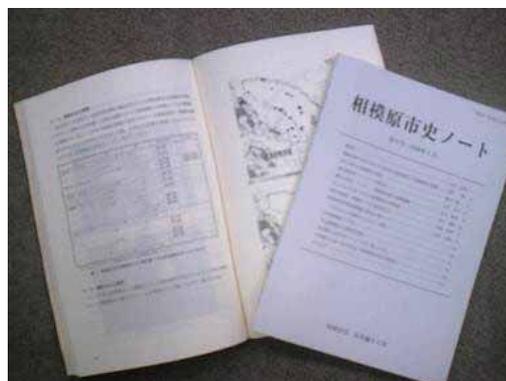
（相模原市史『現代図録編』所収「駅別1日平均乗車人員」より作成）

年度	人
1953 (S28)	1,907
1955 (S30)	2,275
1960 (S35)	3,247
1965 (S40)	6,786
1971 (S46)	40,015
1975 (S50)	24,141
1980 (S55)	25,695
1985 (S60)	27,156
1990 (H2)	31,449
1995 (H7)	30,327
2000 (H12)	28,555

『相模原市史ノート第3号』を刊行

600円で好評販売中！

市史編さん室では2003（平成15）年度から、事業の状況や研究成果をお知らせする「相模原市史ノート」を刊行していますが、このたび第3号を刊行しました。今回は「津久井町の文書資料と保存」「連合軍宿舎ハウスメイド養成所」「講中・組合・トナリ」「だんだんとわかってきた相模原市の哺乳類」などの専門テーマ報告や、昨年7月に開催した市職員研修会「情報公開の時代における市町村の資料保存と文書管理の課題」のレジュメも再録しました。またこの「市史編さんだより」の変遷がわかるよう、創刊から約5年間分、第29号までの表紙をそのまま掲載しています。購入方法は4ページをご覧ください。なお、「相模原市史ノート」は、今後も毎年刊行していく予定です。





編さん室の動き (5月～6月)

月	日	内 容
5	1	現代編資料調査 (防衛庁防衛研究所)
	2	「市史編さんだより第30号」発行
	9	博物館防災訓練に参加
	16	神史協監査
	18	自然編地下水データ収集 (本庁、23・26日にも実施)
	19	考古編資料化作業 (勝坂遺跡第1次調査資料) 開始
	20	近現代部会開催
	24	神史協総会に参加 (県立公文書館)
	25	相模湖地域巡検
6	2	現代編資料調査 (県立公文書館、8・13・16・22・27・30日にも実施)
	6	民俗編調査準備 (田名、8日大島、13日上溝)
	7	津久井・相模湖地域の小・中学校、公民館等に既刊市史を配本 (写真、8・15日にも実施)
	14	津久井・相模湖地域、藤野町巡検
	23	現代編資料調査 (国立国会図書館)
	27	文化遺産部会開催



小原の郷(相模湖 町 小原)
ちよう



以下の刊行物を販売しています。お求めは、市史編さん室・市立博物館・行政資料コーナーへどうぞ。なお、送料実費負担で配送の取扱いもいたします。

刊行物名	価格	大きさ・ページ数	刊行時期
相模原市史現代図録編	1,500円	A4判・296ページ	平成16年11月
相模原市史第1～7巻	1,900～4,500円	B5判・598～842ページ	昭和39～47年
相模原市史ノート創刊号	350円	A5判・112ページ	平成16年3月
相模原市史ノート第2号	700円	A5判・103ページ	平成17年3月
相模原市史ノート第3号	600円	A5判・102ページ	平成18年3月

「さがみはら市史編さんだより」第31号

発 行 2006(平成18)年7月1日

編 集 相模原市総務部総務課市史編さん室

〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-19 (市立博物館隣り)

TEL 042(750)8025 / FAX 042(750)8039

E-MAIL : shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp

ホームページ : <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp> (相模原市トップページ)

(市のプロフィール⇒市史編さんについて、または観光・文化⇒市史編さん の順でご覧になれます。)